提言書

誇れる笑顔のまち
瀬戸

SETO FUTURE PROPOSAL

2024年12月

一般社団法人 瀬戸青年会議所

南山大学 総合政策学部 石川ゼミナール(3年生)

南山大学所属 企画系学生有志団体 Ｎａｎｚａｎ ＡＩＤ

目次

ごあいさつ 01

1 提言の前提 02

2 提言の方向 06

3 魅力ある瀬戸の実現に向けて 08

4 未来の瀬戸に向けて 14

5 むすびに 18

6 付属資料 19

表紙イラスト:Haruki Tsuno(NanzanAID)

SETO FUTURE PROPOSAL

ごあいさつ

一般社団法人瀬戸青年会議所
第７０代理事長
井上　陽太

　私たち一般社団法人瀬戸青年会議所（以下、「瀬戸JC」）は、瀬戸のまちを中心とした地域の「明るい豊かな社会の実現」を目指すことを目的に1954年に発足し、本年2024年に70周年を迎える団体です。
　本年は「絆　-深めよう縁・繋げよう未来へ-」をスローガンに様々な運動を展開しており、本年6月に実施した70周年記念式典では「未来へのビジョン」を発表いたしました。このビジョンは、瀬戸のまちを希望に満ち溢れた持続可能なまちにしていく、このような想いを掲げ、瀬戸JCの次の10年、そしてその先の100周年に向けた決意を示したものです。

　この度、ビジョンに掲げた「誇れる笑顔のまち瀬戸」の実現に向けた取組のひとつとして、政策提言を行うこととしました。今回の提言は、瀬戸のまちで地域一体となってすべきことを検討した結果に辿り着いたものをまとめています。

　この政策提言の大きな特徴としては、我々、瀬戸ＪＣのメンバーだけでなく、学識者と学生の皆さんとの共創、そして市民の意見を基に策定したものであるということです。

　学識者、学生として、第6次瀬戸市総合計画策定時の瀬戸市基本構想審議会 会長であり、長年、瀬戸市をフィールドに活動をされる南山大学総合政策学部の石川良文教授のゼミ生の皆さん、我々瀬戸ＪＣともに瀬戸市で活動してくれている南山大学の準公認団体である学生企画系団体Nanzan AIDの有志メンバーに参画いただきました。これに加え、70周年記念事業に参加された子育て世代の市民の皆様の声も取り入れたものとなっています。

　学識者である石川教授のゼミナールに所属する学生の皆さん、Nanzan AIDの皆さんからお聞きした「外から見た瀬戸の魅力」、そして子育て世代の市民が思う未来の瀬戸への想いを提言にまとめました。

　瀬戸市は、市政施行100周年を間近に控えており、未来への持続可能なまちづくりを考えるタイミングであると考えています。
 手にとっていただいた皆様にはご一読いただくとともに、瀬戸の未来を想像し創っていくときの一助となれば幸いです。

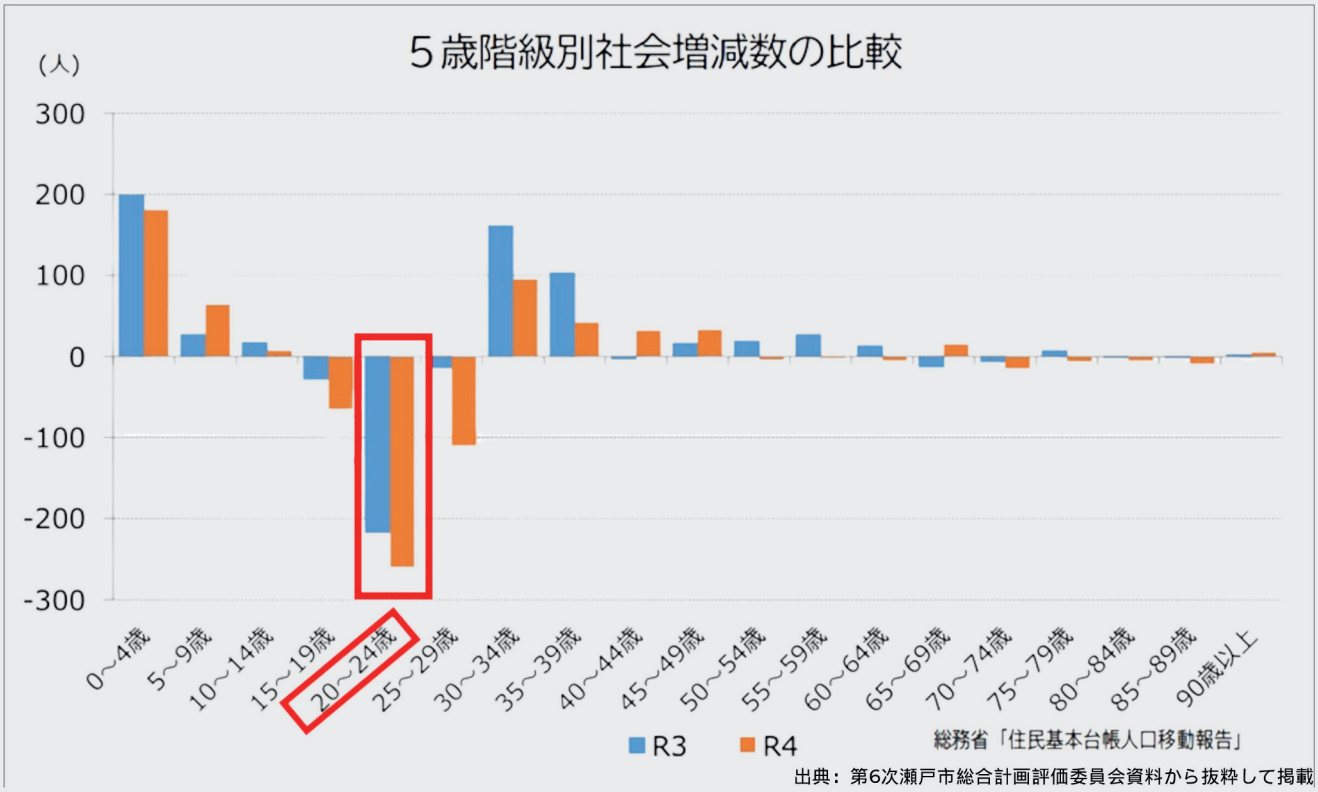
　最後に、この提言書を纏めるにあたり多大なるご協力を賜りました全ての方々に心からの感謝と御礼を申し上げます。

1　提言の前提として

　瀬戸ＪＣは20歳から40歳までの青年経済人で構成される団体であり、我々も含めた土同世代には、子どもたちを育てる「子育て世代」と呼ばれる方々が多くおります。今回の提言は我々「子育て世代」が子どもたちの未来を考えることを前提に策定しています。

　なお、本稿「提言の前提」にある表の数値は、出典等により基準値や推計時点が違うことから、同一時点においても一致しません。傾向を捉える概ねの数値として読んでいただければ幸いです。

　瀬戸のまちは、名古屋市をはじめとした近隣の大都市から中心として子育て世代の流入が見られ、子育て世代の社会増減(※)はプラスになっていますが、他方、20□24歳の大学□就職期の年代は大きなマイナスとなっています。

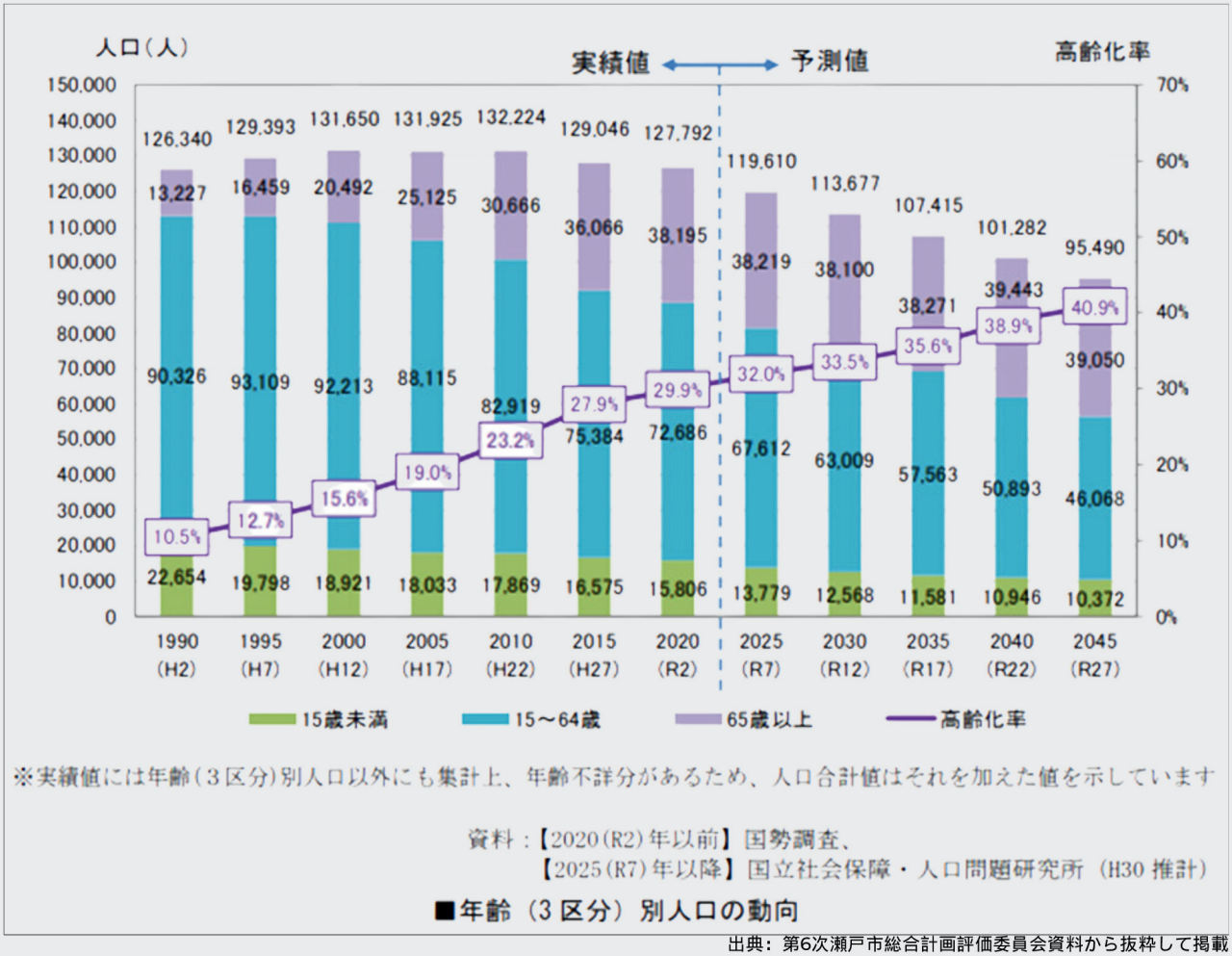


出典：第6次瀬戸市総合計画評価委員会資料から抜粋して掲載

　この傾向はすなわち、「こどもたちが外に出ていってしまっている」という状況です。 コロナ禍以降、東京への転入者数が再び増えている（※）ことから、全国の地方都市全体で同様の動きではあるものの、貴重な世代が市外へ流出している状況であると言えます。

※参考：住民基本台帳人口移動報告2023年（令和5年）結果（移動率）
(https://www.stat.go.jp/data/idou/2023np/jissu/pdf/gaiyou2.pdf)

少子高齢化の進行によって、今から約20年後の2045年には瀬戸の人口の4割が65歳以上となることが見込まれています。



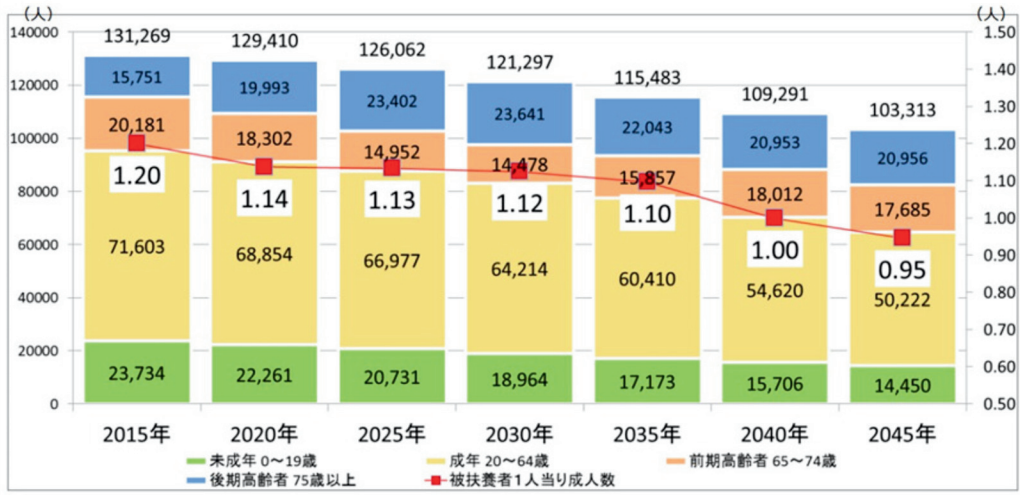
出典：第6次瀬戸市総合計画評価委員会資料から抜粋して掲載

昨年2023年10月1日の段階（※）で、瀬戸の65歳以上の老年人口割合は30.4%となっており、愛知県内の市町村ではワースト10位（町村を抜いた市単位では新城市（37.9%）、愛西市(32.0%)、津島市(30.7%)につづくワースト4位）のまちとなります。

※参考：愛知の人口(年報)2023年10月1日現在
https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/495523_2264251_misc.pdf

年間、200人程度の20□24歳における転出超過状況を打破しないと、被扶養者（※）一人当りの成人数は2045年には1人を割り込むことが予想されています。これは成年世代(20～64歳)の成人1人で複数人の社会保障を担う時代に突入することを意味します。

図 8　瀬戸市の将来人口推計（年齢４区分と被扶養者一人当り成人数）



出典：第6次瀬戸市総合計画評価委員会資料から抜粋して掲載

少子高齢化の進行は日本全国の状況ではあるものの、近隣市に比べ高齢率が高い瀬戸市は、この状況が早く訪れることが想定されることから、この対策は極めて急務であると言えます。なお、前期高齢者(64～74歳)と後期高齢者(75歳以上)を社会保障の観点から比較すると、社会保障の大きなウェイトを占める医療費は約1.6倍、介護費は9.7倍かかるものとされています。後期高齢者が増えることが確実な未来において、現役の世代たる成年世代(20～64歳)により多くの負担がかかることが予想されます。（※）

表２　年齢階級別の１人当たり医療費および介護費（2014年）

年齢階級	１人当たり医療費(a)
65-69歳	48.4万円
70-74歳	63.5万円　（＋15.1）
75-79歳	78.5万円　（＋15.0）
80-84歳	92.6万円　（＋14.1）
85歳-	104.8万円（＋12.2）

年齢階級	１人当たり介護費(b)
65-69歳	3.7万円
70-74歳	7.7万円　（＋4.0）
75-79歳	17.8万円　（＋10.1）
80-84歳	41.3万円　（＋23.5）
85-89歳	83.6万円　（＋42.3）
90-94歳	145.3万円（＋61.7）
95歳-	214.2万円（＋68.9）

年齢階級	(b)/(a)
65-69歳	8%
70-74歳	12%
75-79歳	23%
80-84歳	45%

１人当たり平均医療費	
前期高齢者	55.4万円①
後期高齢者	90.7万円②
②/①	1.6倍

１人当たり介護費	
前期高齢者	5.5万円①
後期高齢者	53.2万円②
②/①	9.7倍

○年齢区分ごとに「１人当たりの医療費と「１人当たり介護費」を比較すると，年齢の上昇に伴う費用の増加率は介護費の方が医療費より大きい．

※１人当たり」は年齢区分ごとの医療費，介護費をその年齢区分の人口で除した値

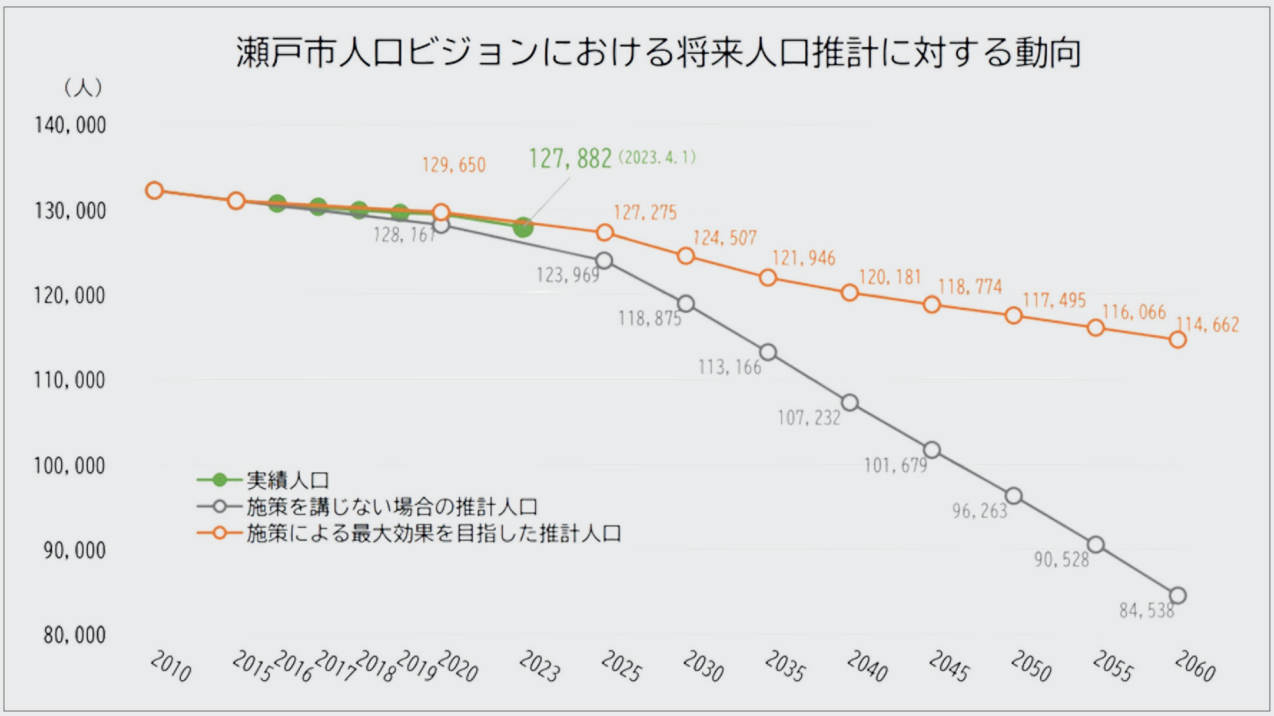
○介護費の方が医療費より長寿化の影響を受ける．

財政制度等審議会　参考資料「社会保障について」（平成30年４月11日）を加筆修正

この状況を放置すれば、今を生きる子どもたちの将来に、大きな負担を押し付けることとなってしまいます。瀬戸が成年世代に選ばれるまちとなり、人口構成を適正に保つことが最重要であると言えます

参考：超高齢国家日本における医療と介護の現状と課題　遠藤久夫
(https://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/19750203.pdf)

第２次瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略において示された人口ビジョンの将来人口推計のとおり、今後も少子高齢化が進み、子どもの数は減少し、未来における人口減少は避けられません。



出典：第6次瀬戸市総合計画評価委員会資料から抜粋して掲載

しかし、現在、瀬戸で暮らすこどもたちが、20□24歳の世代になったときに、瀬戸に留まってくれる選択肢をもつことによって、瀬戸のまちの持続可能性が高まります。子どもたちが「瀬戸に住み続けたい」と思うことこそが持続可能な瀬戸市をつくることにつながるのです。

このため、「瀬戸って良いまちなんだ！」と思えるシビックプライド（※）を醸成すると同時に、生活をする上で避けて通れない交通インフラの整備、人生の基盤となる就職・就業環境の整備が必要だと考えます。

本提言では、これらを踏まえ、「シビックプライド」「交通インフラ」「就職・就業」をキーワードとして、今まさに20□24歳の世代を迎える学生の視点をふんだんに取り入れ、とりまとめました。

※シビックプライド：市民が都市（まち）や地域に対して持つ「誇り」や「愛着」を表現する言葉のこと

2　提言書の方向

　未来の瀬戸を考える際、現在、0歳～18歳までの子どもたちが将来を考えるタイミングは、概ね数年から20年といったタイムラグがあります。そこで、今回の提言では、想像して実現できる未来として概ね10年程度未来の瀬戸を想定したものとしています。
　ただし、「10年後に達成できていれば良い」ではなく、「今から」我々子育て世代を含め、瀬戸に関わる全員でできることから順番に取り組んでいくことを念頭にしています。

(1)　瀬戸に住む子育て世代が考える重要なもの

　先に実施した70周年記念事業において、子育て世帯と一緒により良い瀬戸とは何だろうということを考えました。
　参加者へ事前に「子どもたちが『将来にわたって瀬戸で安心して暮らせる環境』として重要だと思うものを教えてください。」というアンケートを行い、以下の順位となりました。

順位	項目	カテゴリ
1	通勤・通学に便利な駅や交通手段が整備されている	公共交通
2	地域イベントや交流の場がある	地域交流
3	放課後デイサービスや保育園など育児支援が充実している	医療、支援
4	自宅以外で過ごせる新しい図書館などが整備されている	地域交流
5	買い物できる場所が充実している	買い物
6	就職や起業への支援、職業体験の機会がある	就職、就業
7	地元で就職しやすい環境がある	就職、就業
8	自慢できる観光スポットがある	地域交流
9	医療施設や病院が近くにある	医療、支援
10	教育の質が高い学校や大学が整備されている	教育
11	IT やデジタル産業などの新しい企業が多い	就職、就業

（回答総数 80 組の子育て世代）

　その結果として、「公共交通」「地域交流」「医療、支援」「買い物」「就職・就業」「教育」の順となりました。

(2)　学生の視点からみえるもの

　これらの結果も踏まえ、現在、将来を考えるタイミングに来ている大学生とのディスカッションを行ったところ、特に関心が高かったのが「公共交通」「地域交流」「就職・就業」であり、今回、焦点を当てることにしました。

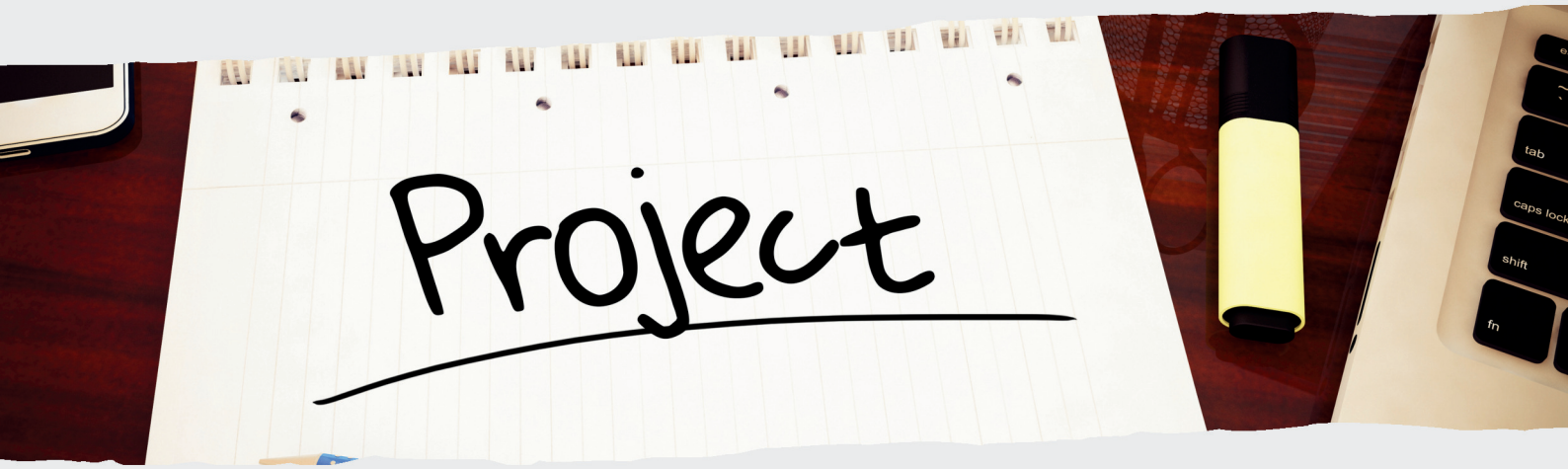
　なお、今回、提言の内容は、誰もが親しみを持って読めるようにするため、「瀬戸に住んでいるとある学生の事例」をベースにして、Ａ、Ｂ、Ｃの３つの事例として取りまとめを行いました。

３　魅力ある瀬戸の実現に向けて

　未来の瀬戸を考える際、現在、0歳～18歳までの子どもたちが将来を考えるタイミングは、概ね数年から20年といったタイムラグがあります。そこで、今回の提言では、想像して実現できる未来として、概ね10年程度先の瀬戸を想定したものとしています。

　ただし、「10年後に達成できていれば良い」ではなく、「今から」我々子育て世代を含め、瀬戸に関わる全員でできることを順番に取り組んでいくことを念頭にして、各プロジェクトを構成しています。

プロジェクトＡ「「公共交通の負担軽減と次世代交通の実現」」
プロジェクトＢ「地域資源の魅力の伝承体制の構築」
プロジェクトＣ「キャリア支援とインキュベーションセンターの整備」



次ページからは各プロジェクトについて詳しく記載しています。

プロジェクトA
「公共交通の負担軽減と次世代交通の実現」

ストーリー「品野に住むとある大学生」

彼女は生まれてからずっと品野連区に住み、品野支所前にあるバスロータリーまで徒歩20分の距離に住む名古屋市内の大学に通う２年生。彼女はキャンパスまでの移動が毎日の悩みの種だ。バスの本数は少なく、授業が終わった後には、尾張瀬戸駅で長い間バス停で待たなければならない。飲み会に参加しても、名古屋市内に住む同級生は２次会へ行くのを尻目に、「終バスがあるから帰るね」と言って早々に切り上げるのがいつもの光景だ。ついつい楽しくなって終バスを逃してしまったときには、両親に「尾張瀬戸駅まで迎えに来てほしい」と連絡をする。両親は「危ないから」と優しく言って迎えに来てくれるが、「遅い時間に申し訳ないな・・・」と心のどこかで引け目を感じる。

ふと、「瀬戸市がもっと便利な交通網を整えてくれれば、このまちに住み続ける理由も増えるのにな」と考える。彼女は友人との会話でも、「卒業後は東京か名古屋で就職しようかな」と口にすることが多くなる。交通の不便さは、彼女にとって地元に留まる選択肢を削る要因となっていた。

提言

現在、瀬戸市の主な公共交通は、「名鉄瀬戸線」「愛知環状鉄道」「名鉄バス」「コミュニティバス」となります。名鉄瀬戸線の栄駅発の最終電車は０：２２に尾張瀬戸駅に到着しますが、その時間には当然、コミュニティバスや名鉄バスの運行時間は終了しています。

現在、市が公共交通として予算投入しているのは「名鉄バス」と「コミュニティバス」ですが、このあり方について以下内容を加味することで、子ども達が未来を選択する際の大きな希望になるのではないか、と考えます。

【具体的な取組】

公共交通における負担軽減

公共交通を積極的に活用することによる市内各地へのアクセス向上は、市域を知る機会の創出にもつながります。そこで大学生以下や高齢者の運賃を半額にする、月1,000円での乗り放題プランの運用などによって、日常的に公共交通を利用するという土壌を創出します。

週末＆年末年始の延長運転の実施

年末など夜間需要の増す時期の公共交通の確保のため、苫小牧市の「NighTOMA BUS(ナイとまバス)(※1)」も参考にした延長公共交通を実施することで、公共交通満足度を向上させます。

駅から目的地を結ぶ自動運転公共交通の実現

現在実施している「チョイソコせとあさひ(※2)」を進化させた自動運転技術を導入し、市内の公共交通を補完するオンデマンド交通サービスを展開。予約型アプリやスマートフォンを通じた利用が可能なシステムを構築し、移動の自由度を向上させる。また、市内飲食店で3,000円以上飲食した場合や定光寺、岩屋堂などの自然と触れ合う場所への運賃軽減施策を実行します。

なお、これらに向けては、以下の要素を整理しておく必要があります。

財政支援の必要性

補助金や地域交通に関する国の助成金を活用し、初期投資財源を確保する必要があります。

技術インフラの整備

瀬戸市内において、先進的なプログラムである自動運転フィールドを誘致するとともに、必要なデジタルインフラを段階的に整備し、確実な安全性を確保する必要があります。

※1出典：北海道苫小牧市HP「ナイとまバスとは？」
※2出典：瀬戸市HP 乗合タクシー「チョイソコせとあさひ」

【期待される効果】

地域経済の活性化
市内での移動が活発になり、商店街や観光地の賑わいが増加します。また、終バスの時間が延びることで、地域内に新たな飲食店や集える場所が創出するにつながります。

地域定住の促進
通学・通勤が便利になることで、若年層や家族層の定住意欲を高めます。

持続可能な地域の発展
公共交通の活用促進により常日頃からの瀬戸のまちを回遊する習慣がつくられます。付帯的には、高齢者の外出促進にもつながり健康寿命の延伸にもつながります。また、自動運転により持続可能な交通体系を構築し、公共負担や環境負荷の軽減にも寄与します。

提言が実現した未来

徒歩で品野バスロータリーへ向かっていた彼女は、スマホでオンデマンド交通アプリを開き、数回タップするだけで自動運転の車が迎えに来るようになった。移動がこれまでよりもずっと快適で、待ち時間も大幅に短縮された。終電で尾張瀬戸駅に着いても、オンデマンド交通によって家に帰ることができ、市からの補助もあるので、必要最小限の費用負担で家に帰ることもできる。

「これなら卒業後に地元で働くのも悪くないな」。彼女は地元企業の就職説明会に積極的に参加し始め、地元でのキャリアを築く選択肢を真剣に考えるようになった。彼女は、利便性の高い瀬戸市に魅力を感じ、「瀬戸は便利だし、家族ができても住み続けよう」と考えるようになった。

プロジェクトＢ
「地域資源の伝承体制の構築」

ストーリー「ベットタウンに住む普通の大学生」

彼女は、小学校に上がる前に両親と共にみずの坂に引っ越してきた。現在は中水野駅を経由して名古屋市内の学校に通う高校２年生。大学へ進学し、卒業後は、名古屋市内での就職を考えている。彼女から見て瀬戸は、「藤井聡太君が有名な地味なまち」くらいの印象であり、自分が将来住んでいるイメージはあまりない。普段は文化系の部活動に勤しみ、休日は友人と一緒に学校近くのイオンに行く生活。地元のやきもの文化や自然も「昔、校外学習で学んだり、両親と岩屋堂とか定光寺に行った思い出はあるけど、正直あまり興味がわかない」と話す。

ＳＮＳを見ていて、たまに可愛い「やきもの」の投稿を見かけるとちょっと気になるものの、どこで売っているものか知らない。大きくなったらめっきり自然に触れる機会も減った。「何にもないまち」という想いが先にきて、瀬戸を誇りに思う気持ちが芽生えない。

そんなことから、彼女の心には「大学を卒業したら、もっと刺激のある都会で働きたい」という想いが強くなっていく。

提言

瀬戸市には長い歴史を持つやきもの文化と豊かな自然がありますが、これらを身近に感じる機会はそれほど多くありません。こどもたちは中学校卒業以降、残念ながら一部の子どもを除き、関わる機会がほとんどないのが現状です。

市民が、瀬戸の魅力を生活の一部として感じられる場所を提供することで、シビックプライドを高め、市民が将来にわたってこの地域に住み続けたいと感じられることにつながるのではないでしょうか。

【具体的な取組】

複合的に楽しめるやきもの体験施設の設置

瀬戸の公共体験施設が点在しており、アクセスが良くないことから、これらの体験型施設を統合し、複合的に楽しめるやきもの体験施設を市内に設置。陶芸体験から瀬戸が発展してきた歴史学習を、子どもから大人まで幅広い世代が学べる場を創出します。また、これらの施設は観光客の需要も取り込める可能性を秘めており、地域経済の活性化にもつながると考えられます。

子どもたちのサードプレイスの整備

家庭、学校に続く第三の居場所「サードプレイス」を整備し、そこに地域の大人も集うことで、子供たちが気軽に地域資源に触れられる場所を創出します。 瀬戸の魅力を語る「人」の存在は、子どもたちが瀬戸に誇りを持つきっかけを与えることにつながります。

自然を活用した環境教育プログラム

瀬戸は、定光寺、海上の森など豊かな自然があり、これらを学ぶ機会を提供し、また、公園施設をパークＰＦＩ制度による民間共創で拠点整備し、魅力あふれる場所とします。これによって、休日に家族で遊びに行く場所に選ばれ、大人も子どもが一緒に楽しみ、瀬戸の豊かな自然を身近に感じる機会の創出につながるものと考えられます。

なお、これらに向けては、以下の要素を整理しておく必要があります。

収益確保の工夫

施設利用費や民間投資を上手く呼び込む持続可能な経営を前提にする必要があります。

パートナーの選定

取組を実施できる民間企業、NPO等を確保する必要があります。

【期待される効果】

シビックプライド向上
やきもの文化や自然など地域資源への理解と愛着を深め、地域への誇りを育みます。

地域経済の活性化
観光客の誘致や地元産業の認知度向上によって、経済効果が期待されます。

地域資源の持つ魅力の伝承
大人と子どもが普段から関わることで、やきものや自然といった地域資源の魅力を途切れさせることなく未来に伝えていき、瀬戸の持つ魅力を将来にも伝えていきます。

提言が実現した未来

　数年後、彼女は大学生として瀬戸市で生活を続けている。瀬戸の中心市街地にやきもの文化だけでなく多様な勉強ができるおしゃれな施設、山間部には自然を活かしつつスターバックスの入居した公園施設ができた。週末には、大学の友人や家族と陶芸体験、自然の中でのアクティビティに参加することも多くなった。瀬戸のツクリテ作家とも施設にいけば交流でき、前よりもずっと身近になり、施設内で実施されるワークショップにはボランティアとしても参加している。

　また、大学の講義でＳＤＧｓや地域資源について学んだ彼女は、実際に瀬戸が取り組むやきもの文化の継承や自然環境保護活動の現場を見て、瀬戸の地域資源の価値を守ることで、まちの持続可能な未来があるのではないかと感じるようにもなった。
少しずつではあるが、地元である瀬戸の魅力に誇りを感じ、「大学卒業後も瀬戸市で暮らしても悪くないかもな」と思うようなった。

プロジェクトＣ
「キャリア支援とインキュベーションセンターの整備」

ストーリー「瀬戸のことは好きだけど就職先に悩んでいる大学生」

彼は瀬戸市内の高校を卒業し、自宅から通学圏内の大学で経済学を学んでいる大学３年生です。彼は市内の会社で働く共働きの両親の下、幼い頃から瀬戸市の自然ややきもの文化にも親しんできて、友達も多いことから、地元が大好きでした。しかし、進路を考えるにつれ、地元でのキャリア選択肢の少なさに不満を抱くようになりました。彼は「地域で就職したいけれども、都会に出た方がスキルアップやキャリアの幅が広いのかな・・・」と考え、東京や名古屋での就職を視野に入れています。地元で開催される就職イベントに参加したこともありますが、なんとなく都会の会社がカッコ良く見えて、瀬戸では学生向けのプログラムや支援がどこに行けば手に入るのかも良くわからないな、感じました。　「もっと瀬戸の企業のことが分かれば地元で働くことも考えるのになぁ」という彼の将来に対する漠然とした不安は、瀬戸を離れてより大きな都市に移る決意にもつながってしまっています。

提言

瀬戸は、やきもの文化から始まった陶磁器産業に加え、「穴田企業団地」「暁工業団地」「山の田・坊金工業団地」の三つの工業団地には企業が多く立地しており、製造業をはじめとした産業に支えられるまちといえます。

しかし、日本全国において人口が減少していく局面において、瀬戸が更なる発展を遂げるには、時代の潮流に合わせた産業の育成も必要であると考えられます。 瀬戸のまちで多彩な職種や多様な働き方を選べることは、子ども達の未来への好影響だけでなく、親である子育て世代のリスキリング（学び直し）にもつながり、まち全体で産業を盛り上げる機運を醸成できるのではないでしょうか。

【具体的な取組】

新たな企業用余剰地の確保

現在、市内に企業用の余剰地がなく地元企業も市内での事業拡張が困難となっています。都市計画の見直しでタネ地を確保し、若者たちの働く場所の確保につなげます。

新興企業誘致と起業支援

市がスタートアップやイノベーション企業を積極的に誘致し、地元での起業活動を支援します。令和６年１１月に開業した「STATION Ai(ステーションアイ)」や名古屋市内にある「NAGOYA INNOVATOR's GARAGE(ナゴヤイノベーターズガレージ)」「なごのキャンパス」などの起業家向けインキュベーションセンターとのコラボレーションを密にし、瀬戸市をフィールドにビジネスを展開できるよう、スタートアップのネットワーク構築支援、市の社会課題解決に向けた共創体制の構築、準備資金調達のためにベンチャーキャピタルによる出資を後押しするため市のベンチャーキャピタル認定制度つくります。

市内でのリモートワークやコワーキングの促進

「瀬戸くらし研究所」「ビル余白」「梅村商店」などワーキングスペースやシェアオフィスを展開する地元企業との連携によって市街地を中心として市内に労働人口が流入する仕組を創出します。中心市街地などの市内飲食店での飲食によって、ワーキングスペース利用補助や駐車場割引制度をつくるなどして、市内の経済循環を高めます。

次世代人材育成プログラム

高校や近隣大学と連携し、インターンシップや職業体験プログラムを充実させ、地域でのキャリアパスを具体的に示します。また、若者が必要とするスキル習得としてＩＴ等の講座を実施し、市内企業へ就職を促すことで、地域の中小企業におけるDX促進にもつなげます。

柔軟な働き方の促進

市と市内企業が協力し、リモートワークやフレックスタイム導入を推進し、若年層のライフスタイルに合わせた働き方を実現します。特に企業団地内企業の従業員の中心市街地リモートワークを促進することで、中心市街地の流入人口を増加させ、活性化につなげます。

なお、これらに向けては、以下の要素を整理しておく必要があります。

資金確保体制の整備

地域金融機関と綿密な連携し、まち全体でスタートアップを育てる意識醸成が必要です。

【期待される効果】

若者の地元定着促進

地元企業や新興企業の誘致・支援により、若者が地元で自分らしいキャリアを築ける選択肢が増加し、人口流出の抑制につながります。

地域経済の活性化

企業誘致や起業支援、デジタルスキル育成を通じて地域の産業が多様化・活性化し、新たな雇用創出や市全体の競争力向上を実現できます。また、中心市街地に労働人口が流入することで、ランチや買い物需要の増加が見込まれます。

暮らしの質の向上

将来さらに促進されると考えられる柔軟な働き方が促進されることにより、働きやすく住みやすい環境が整備され、幅広い世代が瀬戸市での生活を選びやすくなります。

提言が実現した未来

彼は、インターンシップや新設されたインキュベーションセンターでのビジネス講座に参加したことによって、地元企業の魅力や成長の可能性を知るとともに、瀬戸市が推進するデジタルスキル育成プログラムは、彼の将来に新たな選択肢を示しました。リモートワーク環境が当たり前になったことで、市内でテレワークが可能な働き方を模索する企業も増えており、彼は地元で生活しながら全国のプロジェクトに参加できる未来を想像しています。また、中心市街地に足を運ぶことが多くなったことから、彼の地元愛はさらに高まりました。

彼は、「自分らしいキャリアを地元で築けるかも」という実感を得て、将来的に瀬戸市で就職し、ここで家族とともに住み続けたいと考えるようになりました。

4　未来の瀬戸に向けて

　ここまで記載したプロジェクトは、瀬戸で起こすことのできるいくつかの可能性を列記したものです。決して不可能ではなく子どもたちが誇りを持って瀬戸で暮らしていけるために必要であるものであると考えています。
　この章では、提言が実現された少し先の未来の子どもたちを主人公として、エピソードを記載しています。

ちょっと未来のエピソード①
「親子での特別な時間を過ごせるまち瀬戸」

　小学校４年生のとある日、母が新しくオープンしたインキュベーションセンターでリモートワークをするというので、私と弟は一緒について行くことになった。普段は名古屋に出勤して事務仕事をする母が「今日は新しい場所で仕事するよ」と嬉しそうに話していたので、なんだか特別な感じがして、朝からワクワクしていた。

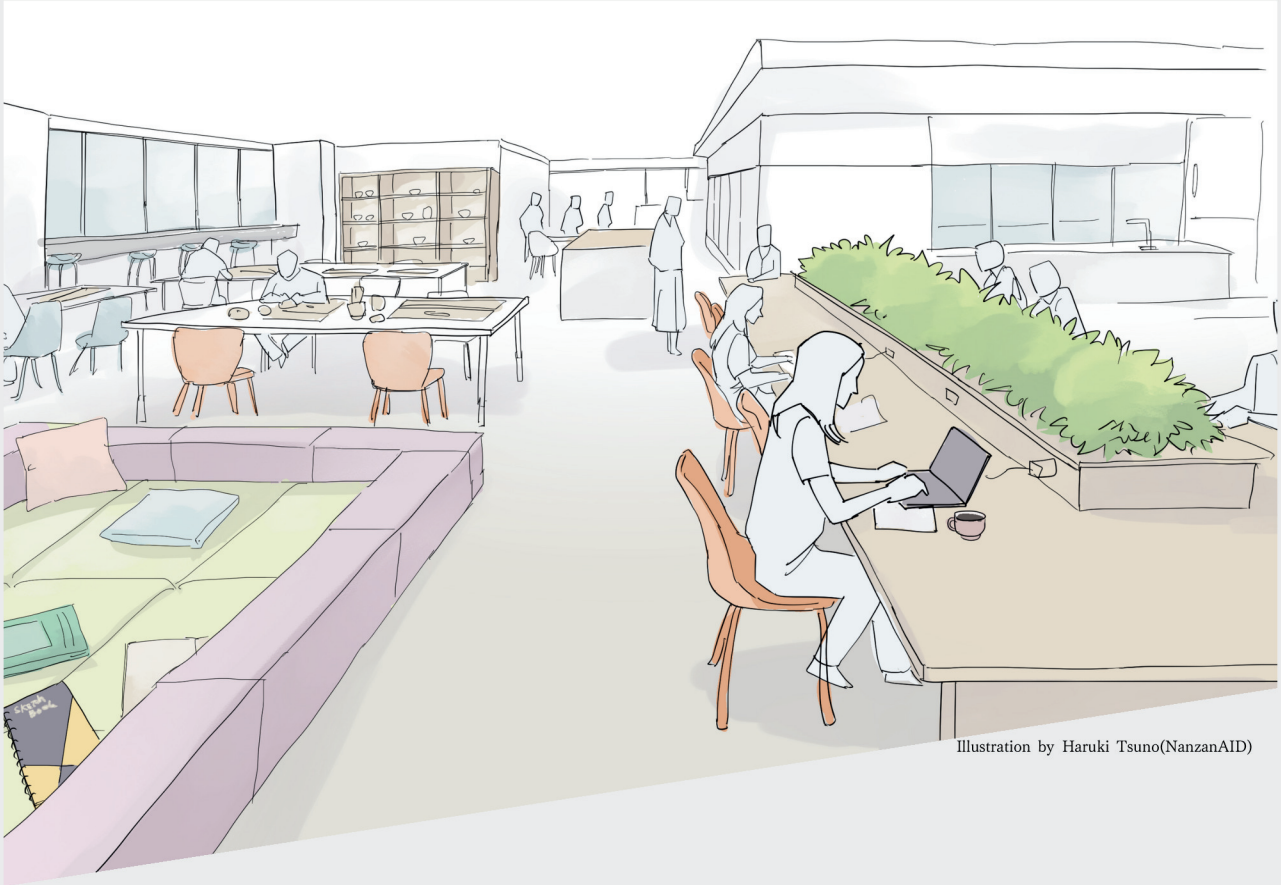


Illustration by Haruki Tsuno(NanzanAID)

　インキュベーションセンターに着くと、まずその広々とした空間に驚いた。ガラス張りの明るい室内には、机や椅子が整然と並び、大人たちが静かに作業をしている。奥にはキッチンコーナーがあり、コーヒーの香りが漂っていた。母は私たちに、「ここでちょっと待っててね」と言いながら、自分のノートパソコンを机に広げた。私は少し緊張していたけど、センターのスタッフさんが「こちらで本を読んだり、絵を描いたりしていいよ」と親切に声をかけてくれたので、持ってきたスケッチブックを取り出して弟と一緒に絵を描き始めた。

その後、休憩時間になった母が、「併設されているやきもの体験施設に行ってみない？」と誘ってくれた。私は大喜びで、スタッフの案内に従い施設の中に入った。そこには土の香りが漂い、ろくろや道具が整然と並べられており、地元の職人さんが優しく声をかけてくれて、陶芸体験をすることになった。

「好きな形を作ってみてね」と言われて、私は一生懸命お皿を作ろうとしたけれど、なかなかうまくいかない。職人さんがそっと手を添えてくれて、少しずつ形が整っていった。その間、職人さんが瀬戸のやきものの歴史について話してくれた。

「瀬戸は昔から陶器の町として有名なんだよ。ここで作られたやきものは日本中に届けられて、多くの人々の日常を支えてきたんだ。私たちが今でもこの技術を守り続けているのは、瀬戸の文化を次の世代に伝えたいからなんだよ。」

学校で習ったことはあったが、今日はじめて出会った大人が、静かに、でも熱く歴史や想いについて話をしてくれる姿は、どこか心に残るものがあった。完成したお皿を見て、私は「これを大切に使いたい」と心から思った。

数日後、休みの日に今度は父が同じインキュベーションセンターで、ＡＩのセミナーを受講するというので、一緒に行くことになった。父は最近、中心市街地で仕事をできる場所でリモートワークというかたちで仕事をしているそうだ。そこでセミナーが開かれることを聞いたらしい。父は「リスキリング」という言葉をよく口にする。「大人になってから新しいことを学ぶ、学び直しって、ちょっと緊張するけど楽しいんだ」と話していた。私にとって父は何でも知っている存在だと思っていたから、「お父さんでも学び直す必要があるの？」と少し不思議に感じていた。

センターに着くと、父はセミナー会場に入り、私は再びやきもの体験施設に行くことにした。前回よりもリラックスして土に触れ、今度は小さな花瓶を作った。完成した後、またあの職人さんと話す機会があり、「お父さんもお母さんも、すごく一生懸命だね」と言われた。私はなんだか誇らしい気持ちになった。

その日の帰り道、父がセミナーで学んだ内容を熱心に話してくれた。「未来の技術を知ることで、新しい仕事や可能性が広がるんだよ」と話す父の姿は、普段より少しキラキラして見えた。

この体験を通して、私は家族が新しいことに挑戦している姿に触れることができた。そして、自分の住むこの瀬戸には素晴らしい文化や新しい可能性が詰まっていることを知り、ますます瀬戸が好きになった。将来は、私も瀬戸の魅力を伝える仕事をしてみたいなと思うようになった。

ちょっと未来のエピソード②
「友達に誇れる自然のあるまち瀬戸」

高校２年生の春、友達の美咲から「自然に触れてリフレッシュしたい」と言われ、定光寺の自然体験施設に行くことになった。定光寺は小学生のころに家族で訪れたことがある場所だ。昔はさびれた印象だったけど、最近は新しく整備されたと聞いていたので、どんな風に変わったのか興味があった。

その日、私たちは自動運転のオンデマンドバスを使うことにした。これは瀬戸で最近導入された新しい移動手段で、スマートフォンのアプリで行き先を指定するだけで、バスが迎えに来てくれる仕組みだ。バスに乗るとき、ドライバーがいないことに少しドキドキしたけど、動き出すとスムーズで驚いた。「これ、未来感あるよね！」と美咲が興奮気味に言って、私もつられて笑った。

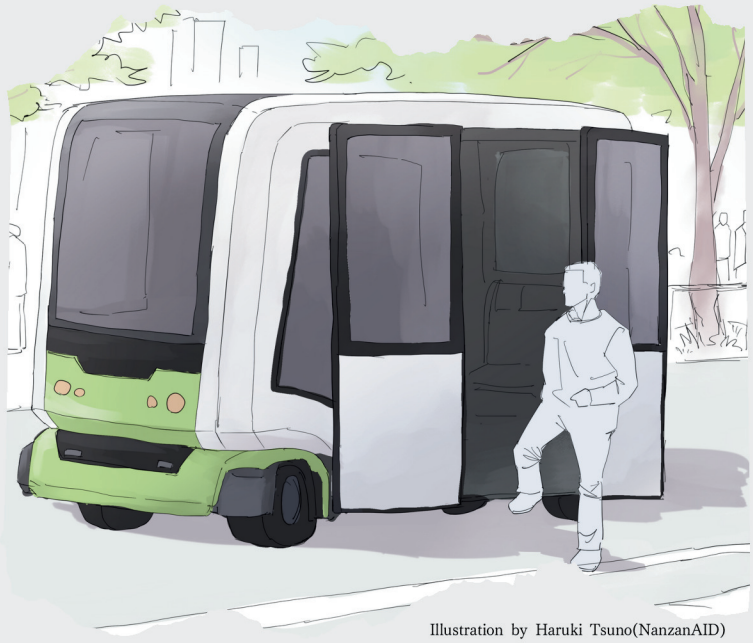


Illustration by Haruki Tsuno(NanzanAID)

バスの窓から眺める瀬戸の景色は、春の陽気に包まれていて気持ちがよかった。細い道でもスイスイと進む自動運転バスのおかげで、あっという間に定光寺に到着した。

施設に足を踏み入れると、まず目に飛び込んできたのはスタイリッシュな建物と、その隣に併設されたスターバックスだった。モダンなデザインが自然と調和していて、以前来たときのさびれた公園の印象とはまるで別物だった。美咲も「うわー、めっちゃオシャレ！」と驚いていた。

施設の中では、地元のガイドさんが案内してくれる自然観察ツアーに参加した。ツアーでは定光寺の周辺を散策しながら、地域特有の植物や動物について教えてもらった。小学生のころにも同じような場所を訪れた記憶があるけど、あのときとは違い、今は大人の視点で自然の豊かさを感じられるようになっていた。例えば、木の幹に付いた苔を指差しながら「これも生態系の一部なんだよ」と説明されると、以前ならただの緑色の塊にしか見えなかったものが、急に大切な存在に思えてくるから不思議だった。

散策を終えたあとは、公園内にあるおしゃれなカフェで一息つくことにした。大きな窓からは緑いっぱいの景色が広がり、美咲はカフェラテを飲みながら「こんなオシャレな場所で自然も楽しめるなんて、ほんと羨ましい！ 瀬戸ってすごいね」と感心していた。私は「まあね」とちょっと得意げに答えたけど、実は自分でもここまで瀬戸が進化しているとは思っていなかった。

Illustration by Haruki Tsuno(NanzanAID)

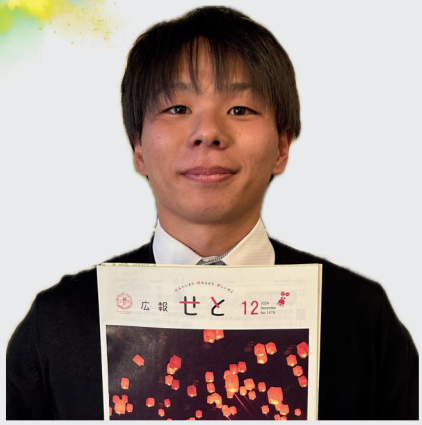
散策を終えたあとは、オンデマンドバスで瀬戸の中心市街地の商店街に行くことにした。そのまま帰るつもりだったが、オンデマンドバスのアプリを開いたらオススメのお店が案内されたためだ。そこで美咲と晩ごはんを食べて私たちは今日の出来事を振り返りながら話が弾んだ。

美咲は「私の住んでるまちは、どっちかと言えば便利だけど、自然はあんまりないし…瀬戸みたいに未来感があって自然もあって地元が輝いているところって理想だよね」と話した。

その言葉を聞いて、瀬戸の良さを改めて実感した私は「じゃあ、美咲も将来ここに住んだら？」と冗談っぽく返したけど、美咲は「本気で考えちゃうかも」と笑っていた。　美咲は「また来たいな」と何度も言っていて、そんな彼女の姿に私は少し誇らしい気持ちになった。

昔は瀬戸にさびれた印象しかもっていなかったが、こんなにも魅力的な場所に生まれ変わっているなんて、小学生のころの私には想像もできなかった。瀬戸市が未来に向けて進化していることを感じたと同時に、自分の地元をもっと知りたい、そしてもっと誇れる存在にしたいと思った一日だった。

5　むすびに



70周年特別委員会
委員長
奥田　貢大

　ここまで記載させていただいた内容は、単に「交通手段の改善」「体験施設の整備」「就業環境の整備」といった単独の施策を実施するものではないと考えています。もちろん場所を整備すれば良いというものではありません。

　瀬戸には「ひと」「歴史」「自然」といった多様な魅力があります。これら魅力ある「ソフト」を最大限に活かしたまちづくりの手段として、交通や施設といった「ハード」の整備があるものと考えています。人口縮小、少子高齢化が進む瀬戸において、財政的にも人的にもさらに厳しい状況となることは間違いありません。全国的な動向を見ても、ただ増やす「ハード」の整備はもうできません。

　このため、提言の内容を実現するには、行政任せではなく市民も一体となって、「本当に必要なもの」を議論し、時には今あるものを無くす、そのうえで新たなものを創るという選択をしなければなりません。もしかしたら、家の隣にある公民館はなくなるかもしれません。あそこにあったバス停は廃止になってしまうかもしれません。あの施設は役目を終えて別の施設になるかもしれません。

　それでも「子どもたちが誇りに思えるまち 瀬戸」とはどんなまちか、という基準として判断していかなければなりません。次の世代である子どもたちに、胸を張って我々が住むまちのバトンをつないでいくことこそが、今の大人である我々の役割であると考えています。
　今回、学生の皆さんから多くの知恵と気付きをいただきましたが、彼らの目は大人の我々が思っている以上に敏感でシビアです。利己的な判断は、直ぐに子どもたちには見抜かれてしまうでしょう。

　提言に記載した内容を、複合的・複層的に取り組み、瀬戸を「子どもたちの未来を託せるまち」にしていきましょう。子ども達が将来を考える際、「瀬戸はチャレンジできて希望があるから！！」と思えることこそ、瀬戸の新たな未来をつながるものと確信しています。
　市政施行100周年を間近に控えた瀬戸市は、次の100年に向けた新たなチャレンジのタイミングであると思います。
　「誇れる笑顔のまち瀬戸」を実現するために、皆で未来を創っていければ幸いです。

6　付属資料

提言書策定メンバー

一般社団法人瀬戸青年会議所

井上 陽太	第70代 理事長
奥田 貢大	70周年特別委員会 委員長
鈴木 康浩	2024年度 副理事長
柴田 謙	2024年度 副理事長兼事務局長
山本 祐大	2024年度 専務理事
牧 幸佑	70周年特別委員会 幹事
江川 正司	人とまちの魅力向上委員会 委員長
水野 秀章	70周年特別委員会 委員
黒柳 知世	70周年特別委員会 委員
松本 大助	70周年特別委員会 委員
加納 康平	70周年特別委員会 委員
小崎 晃	70周年特別委員会 委員

南山大学 総合政策学部 石川ゼミナール

後藤 里咲	3年生
橋本 健史	3年生
平光 咲月	3年生
神野 真央	3年生
木村 優月	3年生
鬼頭 乃彩	3年生
小島 佳奈	3年生
駒瀬 円香	3年生
西井 佑真	3年生
小川 友里英 (NanzanAID)	3年生
杉浦 彩月	3年生
杉山 璃恩 (NanzanAID代表)	3年生
多氣 光生 (NanzanAID)	3年生
竹下 そら	3年生
梅田 望愛	3年生
立松 瞭典 (NanzanAID)	3年生

南山大学所属 NanzanAID（大学準公認団体）

山崎 翼(瀬戸ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾘｰﾀﾞｰ)	3年生
堀 匠吾	2年生
青木 颯真	4年生
津野 陽己	4年生
柴田 果凜	3年生
河野 早耶	2年生
谷口 宏樹	3年生
鈴木 大翔	2年生
福留 そら	1年生
本多 ひな	1年生
市岡 莉玖	2年生
河合 祐季奈	1年生

一般社団法人瀬戸青年会議所2024年度10月例会

70周年記念事業「未来へ放つ希望のランタン」フォトギャラリー

↑ 当日の様子は瀬戸JC
公式YouTubeをチェック ↑

子どもたちが考える「瀬戸をこんなまちにしたい」と

70周年記念事業では子どもたちの言葉で大きな木をつくりました

保護者の皆さんに未来の瀬戸へ期待したいことを聞きました

みんなが仲良くより良い生活が出来る街になってほしい

名鉄瀬戸線の線路で、瀬戸市は分断されていると感じます。線路の陸橋化等、考えて欲しいです

たのしくくらせるまちにする

子供の遊び場、交通機関が充実している街 安心して暮らせる街

子供を迎え入れてくれる周囲の環境/子供を育てるのに必要な教育施設の充実が重要と考えます

せとしがいいまちになりますように

こうえんがもっとあったらいいな

飲食店を増やして欲しい

習い事が限られるため、引退された諸先輩方が講師となって地域の学びの場を設けていただけると大変助かります

現在夫婦共働きで子を2人育てています。長期休暇中の子の預け先に苦戦しています。気軽に迎え入れていただける安心できる施設があると大変助かります

一ヶ所で食品、日用品、衣料、衣服等の買い物、病院等の医療が済む複合施設があるといい

渋滞緩和できるような道路の確保。歩道の整備

瀬戸市は、イメージが良くない。昔の良くない瀬戸のイメージが強く浸透していると感じます。

よいまちづくり

もう少し観光なども力を入れて税収が増えるといい

せとものまつり以外のイベント

観光客がいっぱい歩いている風景

地域の行事は大事だと思います（町内など）動物に優しい街であったほしい（瀬戸は遅れてるので）

（講演が）ためになりました

住みやすいまち

瀬戸のイメージを変える。それと同時に岐阜の金華山の公園の様に民間企業の手をかりながら瀬戸に来るきっかけを作る様な施設を造れば良いと思います。

みんながたのしくくらせる町になってほしい

歴史ある街並みを残しながらも街中をきれいに道路など整備した方がいいと思います。道路が他の市町村に比べるときれいに整備を保たれていない気がします。学校や公共施設が古いので綺麗にして利用しやすくしていってほしい。

ゴミの捨て方とかどこにリサイクルができるなどCMとかつくって瀬戸市民にわかりやすくするともっとゴミがへると思います。外国人もたくさんいるから外国人にもわかるようにすればもっとよくなると思います。

栄まで30分という好立地なので末広商店街と銀座商店街にたくさん店舗が入り、飲食店が増えれば第2の大須みたいな若者の集う場所ができる

子供達が自由学習するスペースが少ないので、増やして欲しい

・1日過ごせる図書館(好きな本を自由に読める環境、勉強に集中できる場、カフェ、本に関するイベントができる場)

図書館が街の中心にあることで、子どもたちが本と関わる機会が自然と増え、学力・教育の向上につながるのではないかと思います。

たのしいまちにしたい

まちの子は親だけでなくこのまちで育てていく風土、システムづくり

手に取った食品を安全か調べることなく購入できる様な生活に戻りたい。今の生活は添加物や農薬など、水道のフッ素や空気の汚れ等で豊かではなくなって来ている気がする。瀬戸はどこの町よりも昔ながらの自然を大切に　子ども達が生き生きと、綺麗な空気をいっぱい吸える街づくりを先駆けて欲しい

自然の豊かさを大切しつつ、新しいものを取り入れるのではなく、価値を変えて発信をしていけると良いと思います

笑顔あふれる町でありたい

今の瀬戸の良さを残しつつ、時代遅れではなくノスタルジックに価値を変えて発信をしていければ良いと思う

子供も大人も一緒に楽しめる。施設があるといい。BBQでみんなで楽しめる施設が欲しい

自然を利用した、やさしい□難しい（様々な人が挑戦できる）アスレチックスなどの施設があると良いと思います

市民体育館へのクーラー設置

自然の豊かさを大切しつつ、新しいものを取り入れるのではなく、価値を変えて発信をしていけると良いと思います

学校以外でも、子どもが体を動かして遊べるように、公園な使っていない小学校のグラウンドなどを整備して解放して欲しいです

もっといい町にしたい

学童のスペースが狭いし、保育園無料かもあるなら 学童も補助などもあって欲しい。学童のスペースの確保や、施設の環境の見直しに力を入れて欲しい

みんながたのしめるまちになってほしい

子ども達が安心してのびのび遊んだり運動したり出来るような広い公園がたくさん欲しいです。

多業種、年齢層が幅広い大人と子どもたちが将来について語り合える場（子どもたちに親の意見だけでなく幅広い視野を持ってもらいたい）

図書館の場所は景色が良さそうだが実際は景色が見えず駐車場も急な坂、歩くのも大変、児童館も隣接したり、できれば隈研吾さんデザインによる市民の憩いの場にして欲しい。大規模な工事が必要になるが、クラファンで資金を集めて実現可能かどうか調査してもらいたい。

情報の周知、利用のしやすさを目指してデジタル化の推進

クリニックも不足していると感じる。特に、皮膚科や耳鼻科は当日の予約がコンサートのプラチナチケットを取るかのように、一瞬で枠が埋まってしまうが、時間帯至が出来ないため（朝番等）、下手をすると午前中いっぱい他の事が出来ず診察を待つだけ、という非効率な状態となっており、誰も得をしない状態となっている（名古屋市に限た話は、10時～10時半に予約枠）人、など時間の目途を立てられたので、そのシステムを瀬戸市にも導入してもらいたいし、クリニック自体も増えて欲しいと感じている）

瀬戸市のある地域の子ども達は遊ぶ場所がなくて困っています。端から端まで子供の足で20歩あれば行けてしまうような凄く小さい公園で座って話すか、道路で遊んでいるのが現状です。尾張旭や名古屋市のように子どもが歩いて10分くらいで行けるようどの地区にも広い公園の設置をお願いします。

地域の課題について子どもたちからも意見を出してもらって市に提案していく機会（例）せとみらい会議

子どもが大人になるまで過ごしやすい環境を整える事が大切だと思う。例えば、教育支援から就職までが瀬戸市内で良い環境で整えられると市民が外へ出ていくことが少なくなるから

小中学校の整備(築年数が古く防災面での不安)

子育て支援施設を駅前、車がなくても行ける場所に作りたい（瀬戸は広く県外、市外からきたママたちは運転できない方が利用できない）

子供達が目指したいと思えるような質の高い教育をする高校や大学作りを整えてほしい

安心して子育てできるまち、子育て世代が社会で活躍できるように様々なサポートをボランティアで補うだけでなく、気軽に使えるように推進すること（一時預かり、育児サポート、産後ケア）

自然を大切にできる瀬戸市であってほしい。海上の森でタカのためにモリコロを手放せた地区です

歩道のない道、狭い道が多い割には、自動車の速度が速く、小学生になる子どもを安心して自転車で走らせられない、歩かせるのも心配なところがある。また自分も自動車を運転して、見通しが悪いところが多く、一旦停止の場所と、実際に車の往来を確認できる場所が違っていて運転がしにくいと感じた

子供達が安全に外に出られる道路整備や公園。安心して預けられる施設の充実をすることで、今の子供達が大人になった時、瀬戸に残りたいと思ってもらえると思います。

高齢者が増えていると思うので交通の便が良くなると良いと思います。観光スポットもあるといいなと思います

歴史があり、古い町並みも残っているのに（四川県が中国人であふれるくらいなら、アクセスしやすい瀬戸に来て也飲いのに、と個人的には思っているのですが）、プロモーションと企画次第で、もっと観光客（特に海外の）が呼べると思います。応援しています

子供たちが将来、路頭に迷うことなく仕事して生活が出来る暖かい環境作り。 その為にも、瀬戸市で育児や教育サポート等を重視し、また地元で仕事がしたい！と思える環境作りが重要と考えております。 瀬戸市には沢山の商店街があり、子供たちへの地元は楽しい場所だと思えるアプローチ、心が休まるアフターフォローに最適と考えております。子供たちは安心出来る地域作りこそ最大のアフターケアと考えており、就職活動の際、地元で働きたい！と思えるよう、瀬戸市での就職先(雇用先)バックアップ強化が行かされると思います

親が働いている間に小さい子供を安心して預けることができる場所や子供達が楽しめるイベントなどを充実させ、地域全体で子供を見守り育て、母親がもっと働きやすい市にしてほしい

自然豊かで街のイベントやせともの祭り、商店街など、歴史や愛着が持てる物がたくさんあるので、住みやすいと思える環境整備がされたらもっと素敵な街になると思います！

二人の子どもがいます。上の子は小学生、下の子は幼稚園児です。二人共未就学児の時はよく児童館ややすらぎ会館のプレイルームを利用しました。現在は上の子は小学生になり児童館を利用できなくなりました(年齢制限や小学生は楽しめないなどの理由)。行くとすればモリコロパークの児童館が多いです。安価(モリコロパークの値段設定くらい。大人が300円子ども無料)で室内で幅広い年齢の子ども達が遊べる施設が増えたら嬉しいです。夏休みなど外で遊ぶ訓練にいかないのでご苦労しました。

瀬戸市へ期待することは観光資源をもっと開発してほしいです。せっかく、鉄道が尾張瀬戸まで延びており、海外からの観光客等も呼び込めるポテンシャルがあるのに、駅・バスも外国人対応していない気がします（あまり乗らないので確認できていませんが、岩屋堂に行くために名鉄バスに乗ったときには英語でのアナウンスが無かった気がします）。建物や地図にも英語表記が少ない、ハラル対応の食べ物屋さんが少ない（マレーシア、インドネシア等イスラム圏の方が訪れにくい）など、もったいないと感じています。

SETO FUTURE PROPOSAL

子育て世代が考える「未来の瀬戸へ期待したいこと」

観光客だけでなく、市民も何気なく外に散歩に出たくなるような町。

新しいもの、古いものが融合されたまちづくり

子育て世帯が安心して暮らせるような、規模の大きい公園や、市民プールなどの建設

（学校跡地で）マリオカートみんなでやりたい

商業施設があるといい

みんなが楽しくくらせる町

瀬戸市外から人が来ることで街が活性化されると思うので観光の点に力入れてほしい

地区ごとに分断されたバスルートではなく、幅広く巡れるルート確保

渋滞緩和できるような道路の確保。歩道の整備

図書館やプールは、老朽化などもあるので、リニューアルすることで、市内外からの来客数増を狙える

第2の大須商店街になって観光客を誘致したい

子供の体験ができる施設

商店街、普通の買い物ができるようになってほしい

若者が集まる街

笑顔あふれる町でありたい

""やっぱりせとがすき"を私も大切にしたい

道が広くなるといいと思いました

道路を整備してほしい

他県や他市町村からわざわざ瀬戸に出かけたいと思う、観光スポットは必須

徒歩圏内に飲食店やバーなどがなく、車移動が原則になっているため家族でいけるようなチェーン系の飲食店ができるとうれしい。扇屋しか選択肢がないので、、、

尾張瀬戸駅周辺の観光資源活用 道路整備(市街地の道路幅拡大、区画整理) 大型商業施設の誘致

子育て世帯への支援があると、もっと移住者がくると思う

長久手みたいに注目される街になって欲しい

お祭りなどの行事が多く 子供達が楽しめているのでこのような状態が続いていく地元であってほしいです。

近隣市町村のように、イオンモールやららぽーとなどの商業施設を誘致してくださることを期待

（イベントが）たのしかった

商店街が賑やかになるといいなと思います

瀬戸市は日本遺産にも認定され、古き良き物と新しい物とがバランスよく存在し、自然も多く魅力的な街だと思います。

・娯楽施設（映画館など）が市内にある
・人口を増やしたい

しぜんの多さが好き

自然の多い瀬戸市です。これからも子供達ががのびのび色んな体験できること。

子供達が安心して暮らせる瀬戸市になって欲しい

瀬戸市の文化を引き継ぐ人たちが増えますように

利便性の向上

自然の多い瀬戸市です。これからも子供達ががのびのび色んな体験できること。

瀬戸のイメージを変える。それと同時に岐阜の金華山の公園の様に民間企業の手をかりながら瀬戸に来るきっかけを作る様な施設を造れば良いと思います。

教育施設の充実

・空き家がなくきれいな街並み

地区によっては壊れそうな空き家が目立つ場所も多い。野良猫が住み着いたり、災害時に危険だと感じ場所もある。また道沿いに雑草が多く街全体が雑な感じ。整備管理されてない緑が多く、野暮ったさがある。

焼き物を押して観光誘致するといいと思う

子育て世代が来たいと思う町→教育の充実、子育て支援の充実、児童館の整備

今ある物を大切にし環境を維持していくことと、子育て世代の充実した教育環境を整える事で、若者の人離れを減らし、瀬戸で育った子供たちが、将来自分たちも瀬戸で子育てをしたい！と思えるような環境作りをしていくことが...未来の瀬戸の発展につながるかと思います。

子育て世帯が住みやすい環境が整って欲しい。新しい公園や、遊び場、大型ショッピングモールができて欲しい。

グランドでラジコン走らせたい！

子供達がスポーツや学芸など好きな事に夢中になれるよう支援がある街になるとよいです。

休みの日は瀬戸で過ごしたいと思える場所があるといいです。

せともの祭以外の他の祭をやってほしい

自転車道路の確保、整備。そもそも道路自体狭く危険な歩道すらまだまだ多いので改善して欲しい。車中心で横断歩道に歩行者がいても気づかなかったり、方向指示器も出さない人が多すぎる。交通マナーの周知も市として改善して欲しい。車がなくても困らない交通網を充実させて欲しい。

瀬戸と言ったらあそこがあるね！というスポットがあるといいです。 市外の人たちが瀬戸の有名なスポットに訪れて街並みや人並みを見てここに住みたいと思ってもらえたら嬉しいです。

子育てしやすい街

祖母懐の方？で月1でボードゲーム広場？を開催していただいているようですが、そういう子供がYouTubeやゲーム等から離れられるような昔ながらの遊びやゲームをやれるような場所がたくさんあると参加したいなと思います。

瀬戸市には大きな商業施設がないので、商業施設がほしい。渋滞解消のために道路の整備。

子供が遊べる公園がもう少し欲しい

子供達がスポーツや学芸など好きな事に夢中になれるよう支援がある街になるとよいです。

もっと他の土地、地域の人に瀬戸を知ってもらいたい。

名古屋や豊田への道を整備し、通勤通学をしやすくしてほしい

古い街並みは活かし、観光地としてのアピール

自分達が住んで居ない地域でもイベント等があった時に誰でも気軽に参加が出来ると良い関係が作れるのではないでしょうか

私は6年前たまたま尾張瀬戸駅を車で通った時にパルティ瀬戸の形がおしゃれで瀬戸川沿いの街並みも古い建物が素敵でこの街に住みたいと思い家を買いました。綺麗なにじが丘小学校に通えて子供も喜んでいます。瀬戸に引っ越してきてよかったと思っています。

アクセスが良く利用者も多い新瀬戸駅周辺にさまざまな世代が利用できる施設が欲しい。現在の図書館は子どもを連れての坂が辛く、蔵書も少ないためあまり利用しておりません

天候に関係なく安心して遊べる場所があると良い。 家族で食事ができる飲食店があると助かる。 学校ごとの交流会。

名鉄瀬戸線の名古屋駅までの接続をよくしてほしい。愛環とjrの直通が増えると嬉しい

新瀬戸駅は夕方から夜まで学生たちが路上で遊んでいたり、商業施設のフードコートで勉強をしており子を持つ親としても安全面で不安に感じているため

名鉄瀬戸線の踏切渋滞をなくしてほしい

子どもが参加しやすいイベント、体験などがあると良い

近年人口増加する山口駅近辺にも買い物施設や図書館を作り、長久手地区の人々をもっとこちらに引き込むべき

地元で育った子が地元で働くことに誇りを持てる地域、環境作り

小さい子供達も見学できるような職場体験。

安心して暮らせるような警備ボランティア。

車を運転する上で、今より混雑が緩和された道路になる

お年寄りが多くてそちらに色々支援するのはわかるが 子どもたちの交通手段なども支援してほしい。

近年人口増加する山口駅近辺にも買い物施設や図書館を作り、長久手地区の人々をもっとこちらに引き込むべき

菱野団地に若い世代を呼び込み、活気のある場所にしてほしい

今子供会がある町内も少なく、子供会があっても加入者が減少傾向にある為、近所の人と関わりがあまりありません。何か地域の人と関わりが持てる様なイベントなどがあると知り合いも増え、住みやすく暖かな街になるのでないかと思います

街中にゴミが落ちていない、水がきれい、緑が美しい、地球環境について考え行動できる

子どもが過ごせる場や行きたいと思う場がとても少ないように感じます。児童館も一人で遊びにいけるような近場にはないですし、図書館も他の市のように複合施設のようなものだと子供も積極的に行くのかなと感じています

子供達が誇れる地元にしたい。 みんなが笑顔溢れる地域にしたい

子どもが過ごしやすい瀬戸市。 中学生まで自転車通学が禁止されるほど道が狭かったり山道だったりする瀬戸市。学校に行くのも遊びに行くのもイベントに行くのも親の心配が尽きない。気軽に子供だけで出かけたり、体験したりができない。 子供にとってこの環境というのが良いものなのか不安になります。 イベントごとはあるにはあるけどもわかりにくいし中学生になっても送迎えが必須な場所であったりする。

イベントを定期的にやってSNSなどで発信して瀬戸市を知ってもらう機会をたくさん作る 名古屋や春日井などの人で瀬戸市に何があるか知らない人が多い

キッザニアを作ってください

せとものの まち　ならではのイベント(絵付け、色付け、転写等)を もっと子供達へも参加のきっかけを作って興味を持ってもらえるようになるといい

商店街などがもっと賑わってみんなの集まる商店街になるといいと思う

子どもだけでなく、障がい者、高齢者への福祉施策に対して、他県や他市の動向を見守ってから動くのではなく、積極的に動いて頂き、瀬戸市独自の施策を打ち出して欲しいです。県内県外問わず、瀬戸市ではこんな素晴らしい取り組みが行われていると参考モデルになるような施策を期待しています

バスの通っている場所が少ないので もっと増えてほしい。 商店街の活性化に今より更に力を入れてほしい。 尾張瀬戸駅付近に居酒屋が増えるとうれしい。

SETO FUTURE PROPOSAL

提言書策定までの軌跡

瀬戸の魅力を考えるため、せともの祭や招き猫まつりへ企画、運営側として学生と一緒に参加。また、何度もミーティングを重ねました。その一部を写真で紹介します。

石川ゼミナールとの合同ミーティング

せともの祭ワークショップ

来る福招き猫まつり

一般社団法人瀬戸青年会議所「未来へのビジョン」

●魅力の創出ヴィジョン
我々の住む瀬戸の魅力の発信や体験を行うにあたり、全ての人々が魅力に共感を得ることは難しい事だと考えます。
その為、現状の物だけに拘らず新たな魅力の創出を行うことも並行して行っていく活動を展開して参ります。

●地域と繋がりの構築ヴィジョン
地域に暮らす人々が楽しく生活し、子どもたちが笑顔で育つ環境を整えていく為には、地域とのコミュニティを構築していく事が必要であると考えます。
その為、我々から積極的に連携を図り、絆を深める活動をして参ります。

●未来を担う人財育成ヴィジョン
瀬戸には、多くの魅力が潜在していると考えています。しかしながら、その魅力に気付かされる機会も少ないと感じます。
地域に住む人々に瀬戸の魅力を改めて認識してもらう為に、文化や自然を取り入れた体験の場を提供することが必要だと考えます。人々のニーズを取り入れつつ、今の社会にあった活動を行うことにより、長年、瀬戸に暮らす方も、瀬戸へ転入してきた方に対しても、再度魅力を感じてもらえる運動を展開して参ります。

写真：一般社団法人瀬戸青年会議所2024年度10月例会事業「70周年記念事業」
LEDランタン打上げの様子

提言書「誇れる笑顔のまち瀬戸」
令和6年12月 発行

発行
一般社団法人 瀬戸青年会議所
〒489-8701 愛知県瀬戸市見付町38-2瀬戸商工会議所内
TEL：0561-83-5077 FAX：0561-85-1022
Email：loveseto@setojc.org
ホームページ：https://setojc.org/

編集
一般社団法人 瀬戸青年会議所 70周年特別委員会
南山大学 総合政策学部石川ゼミナール（3年生）
南山大学所属 企画系学生有志団体 Nanzan AID